

# 課題名 労働力確保・軽減による魅力ある薩摩川内市農業の振興

所属名：北薩地域振興局農政普及課

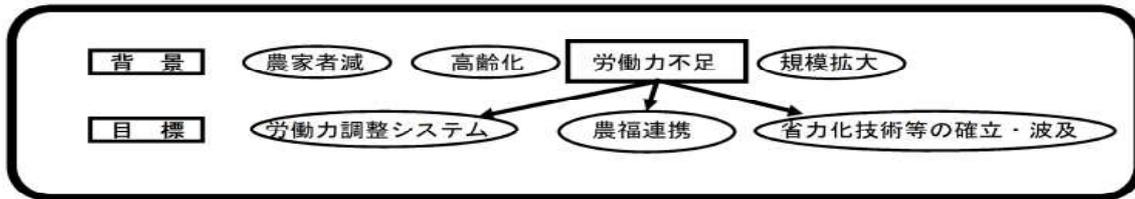
発表者名：上福元 真寿美

## <活動事例の要旨>

農業就業人口の減少や高齢化が進んでいる中、農作業に係る労働力不足は深刻である。そこで、産地の維持のため、労働力不足の解消に向けて、労働力調整システム案を検討し、試行した。また、労働力軽減に向けて、ICT等を活用した省力化技術の実証やその波及に取り組み、水稻においては作型の見直し等を行った。

## 1 計画された活動の課題・目標と策定過程

### (1) 課題・目標と設定理由



薩摩川内市の農業は、5年前と比較して農業者数が約20%減少し、農業就業人口は65才以上が73%を占める中、耕地面積計は横ばいで推移し、個々の経営において規模拡大が図られている。

そのため、臨時・常時雇用を確保や省力化、作期分散等に取り組んでいるが、雇用者の高齢化に伴い、その確保や軽減の取組がさらに急務となっている。

### (2) 計画の策定過程

ア 課題整理（産地の維持のため、品目ごとに課題を整理）

イ 課題の抽出（普及係内の共通認識また、市の農業農村構想のための意見交換）

ウ 目標設定（労働力を補完するシステムの検討と各品目におけるICTを活用した省力化技術の検討）

エ 活動の計画化（普及係内でチームを結成して計画策定）

## 2 普及活動の内容と方法

### (1) 活動の経過

ア 労働力調整システムの構築

(ア) 認定農業者等の意向把握と先進事例調査（大分県2事例）

(イ) 労働力調整システム（案）検討（関連法規の情報収集：調査研究）

(ウ) 専門家を活用した情報収集（調査研究）

(エ) 「薩摩川内市農作業サポート人材バンク」設立支援

イ らっきょうの収穫労働力確保体系の確立

(ア) 県農業開発総合センターが開発した調整機械を、A型事業所と連携して障がい者が利用する場合の検討・検証（「農機＋農福連携」）

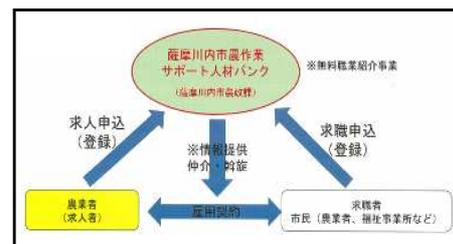
(イ) 受託組合が産地周辺のコミュニティセンター及び地元求人フリーペーパーを活用して雇用者を募集。調整機の改良と他産地・異業種メーカーとの検討（「切り子確保対策」）

ウ 労働力軽減に向けた省力化技術の確立と波及

(ア) ICT技術（水稻における水管理システム等）の実証及び研修会等を活用した波及

(イ) ぶどうのジベレリン処理の省力化技術の実証及び栽培暦を活用した波及

(ウ) 稲作における作期分散体系の提示



- (2) 指導・支援の体制  
活動の対象はそれぞれの生産部会員及び認定農業者とし、連携先は市及びJAとした。

### 3 普及活動の成果

- (1) 課題及び目標の達成状況とその要因

ア 労働力調整システムの構築

令和2年4月に「薩摩川内市農作業サポート人材バンク」が設立。

大分県佐伯市の取組を参考に、鹿児島労働局，川内労働基準監督署，特定社会保険労務士等の専門家から無料職業紹介事業や雇用するにあたっての留意事項について情報収集し，求人・求職申込書，労働条件通知書兼雇用契約書の作成を支援した。

イ らっきょうの収穫労働力確保体系の確立

(ア) 「農機＋農福連携」の検討

切り子作業を3工程①選別（健常者）②根・茎葉の切断（障がい者）③ゴミ等の除去・運搬（障がい者）に細分化し，調整機を改良。

処理量は「農機＋農福連携」が「切り子（健常者）」を上回った。

(イ) 「切り子確保対策」の検討

初年目は8名，2年目は30名の切り子を確保（体験も含む）することができ，切り子確保対策が確立した。

ウ 労働力軽減に向けた省力化技術の確立と波及

(ア) ICT技術の活用状況について，畜産農家17戸に調査した結果，14戸が活用し，継続して活用したいという意向が把握できた。

(イ) ジベレリンの処理回数について，クイーンニーナ(品種名)では，栽培するほぼすべての農家で導入されたが，BKシードレス(品種名)は再検討を要する。

(ウ) 水稻では，畦畔管理と水管理の省力化の実証に取り組んだ。また，作期分散に取り組む農家が8戸に増加した。

- (2) 活動に対する生産者・農家の評価

ア 労働力調整システムの構築は，時代の変化に伴った素晴らしい課題の取組であり，今後に期待したい。

イ らっきょうの調整機について，さらに改良を加えた上で導入したい。

ウ 水田の水管理システムは，シンプルなものが一番利用しやすいと思う。

- (3) 地域農業振興への貢献

それぞれの品目の産地の維持が期待できる。



### 4 今後の普及活動に向けて

- (1) 今後の課題

ア 労働力調整システムの構築

「薩摩川内市農作業サポート人材バンク」の周知及び運用の検討

イ らっきょうの収穫労働力確保体系の確立

調整機の改良継続と製造メーカーの探索

ウ 労働力軽減に向けた省力化技術の確立と波及

未確立の技術の実証検討及び確立された技術の波及

- (2) 今後の活用に向けて

ア 労働力調整システムの構築

雇用管理のための情報提供及び専門家派遣，関係機関・団体と一体となった課題解決のしくみづくりが重要と思われる。

イ らっきょうの収穫労働力確保体系の確立

補助事業を活用した導入経費の削減や福祉事業者を活用した農福連携を図ることが望ましい。

ウ 労働力軽減に向けた省力化技術の確立と波及

実証成果が確認された省力化技術等の波及

